放射性廃棄物処分に係わる生活圏被ばく評価に用いられるパラメータ調査専門研究会
第 6 回会合
議事録

1.　日　時：2021 年 2 月 17 日(水)　13：00～14：30
2.　場　所：WebEx にて開催
3.　出席者：（順不同、敬称略）

委員:

高橋　知之　(京都大学、主査)
深谷　友紀子　(日本エヌ・ユー・エス株式会社、幹事)
飯本　武志　(東京大学)
宇仁　康雄　(三菱重工業株式会社)
加藤　智子　(日本原子力研究開発機構)
武田　聖司　(日本原子力研究開発機構)
中居　邦浩　(日揮株式会社)
中林　亮　　(電力中央研究所)
孫　　思依　(東京大学)

オブザーバー:

内田　滋夫　(量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所)
田上　恵子　(量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所)
平山　誠　　(日本エヌ・ユー・エス株式会社)
三輪　一爾　(日本原子力研究開発機構)
瀬川　嘉之　(高木学校／市民科学研究室・低線量被曝研究会)
武智　義典　(MHI NS エンジニアリング株式会社)
狩野　好延　(株式会社千代田テクノル)

4.　議　題：

①　第 5 回研究会議事録の確認
②　京都大学複合原子力科学研究所専門研究会報告書及びプロシーディングの進捗確認
③　「日本保健物理学会・令和 2 年度企画シンポジウム」についての報告
④　保健物理学会専門研究会報告書について
⑤　保健物理学会誌解説記事の執筆について
⑥　保健物理学会第 54 回研究発表会（令和 3 年度開催）での発表について
⑦　その他

5.　配布資料：

資料 1：議事次第

資料 2：第 5 回研究会議事録
資料 3：京都大学複合原子力科学研究所専門研究会報告書
資料 4：今後の日程（案）
資料 5：IRPA15 での発表

6. 議事内容：

① 資料 2 に基づき、前回議事録の確認を行った。既に委員の確認済みであるが、追加コメント等あれば連絡のこと。

② 京都大学複合原子力科学研究所専門研究会報告書(資料 3)は、同研究所に提出済みである。
現在取りまとめ中の京都大学複合原子力科学研究所専門研究会プロシーディングの進捗状況に関しては、一部は最終原稿を受領済みであり、一部は作成中である。作成中の原稿の締め切りは 2 月末とする。

③ 1 月 26 日に「日本保健物理学会・令和 2 年度企画シンポジウム」で本専門研究会の活動報告を行った(30 分発表、30 分討論)（座長：高橋、発表者：深谷）。質問も幾つかあり、充実したシンポジウムであった。

④ 保健物理学会専門研究会報告書は数ページの概要書とする。高橋主査が執筆し、各委員に確認していただく。

⑤ 高橋主査から、保健物理学会誌に解説記事を執筆することが提案され、了承された。京都大学複合原子力科学研究所専門研究会プロシーディングをベースとして、各委員が執筆する形式とする。
4 月以降に執筆を開始し、完成次第保物誌解説記事として投稿する。

⑥ 12 月に金沢での開催を予定している次回の日本保健物理学会研究発表会（日本放射線安全管理学会合同大会と合同）への参加について議論を行った。研究発表会では、本専門研究会のセッションを設け、報告を行うことで了承された。

⑦ 専門研究会報告書及び解説記事を作成するにあたり、各委員の考える今後の課題等を確認し、下記について合意した。

- 国際的なデータは有用ではあるが、収録されているデータが全体として古く、これらのデータに基づく変動要因等の詳細な議論は難しい印象がある。解決策として、日本独自のデータベースを作成することと併せて、変動要因に関する検討をより深堀りすることが重要と考える。しかし、網羅的にデータベースを作成していくことや、変動要因に関する研究を実際どのように議論していくかということは難しい。このような研究にどこまで人員とコストをかけられるかということもある。この専門研究会がこのような議論のきっかけとなるとよい。
- サイトが決定していない状況で、パラメータの分布幅を狭めることは難しい。データベースの情報や、変動要因に関する知見をどのように使用していくのかが課題となる。なお、長期的な将来の評価に関する信頼性確保の観点からは、

より幅広い分野の専門家の知見、もしかしたら自然科学者以外の専門家の知見が必要になるかもしれない。

- サイトが決定していない現状で、評価に用いるパラメータ値をどのように決定するのかが課題である。幅広いデータの中から、パラメータ値を決定する標準的な手法のようなものを提案することが必要となるのではないか。
- 今後、パラメータ値の設定についての説明責任がより一層求められるのではないか。これまでは、IAEA のデータベースに基づいて評価に用いる値を設定したが、パラメータ値の設定の妥当性について我々が説明する方法を築いていくことが課題として挙げられる。

以上